保護者の方へ

令和６（2024）年４月改訂

予防接種の前に必ずお読みください

５種混合ワクチン予防接種説明文

５種混合ワクチンの接種を実施するにあたって、接種を受けるお子さんの健康状態をよく把握する必要があります。予防接種の前に必ずこの説明文をお読みになり、「ジフテリア・百日せき・破傷風・ポリオ・ヒブワクチン予防接種予診票」にご記入の上、医師の診察を受けてください。

＊予防接種の効果や副反応などについて理解した上で、お子さんの予防接種についてご判断いただきますようお願いいたします。

１　病気の説明と予防接種の効果

（１）ジフテリア

ジフテリア菌の飛沫感染で起こります。1981 年ジフテリア百日せき破傷風混合ワクチン（ＤＰＴ）（無細胞型）が導入され、現在では国内の患者発生数は年間０が続いていますが、アジア地域では、時折流行的発生がみられています。感染は主にのどですが、鼻腔内にも感染します。症状は高熱、のどの痛み、犬吠様のせき、嘔吐などで、偽膜と呼ばれる膜がのどにできて窒息死することもあります。発病 2～3 週間後には菌の出す毒素によって心筋障害や神経麻痺を起すことがあるため注意が必要です。

予防接種導入によりジフテリア患者は著名に減少し、効果は明らかで約 10 年間は持続します。

（２）百日せき

百日せき菌の飛沫感染で起こります。1950 年から百日せきワクチンの接種がはじまって以来、患者数は減少してきていますが、最近、長びくせきを特徴とする学童から思春期、成人の百日せきがみられ、乳幼児への感染源となり、特に新生児・乳児が重症化することがあるので注意が必要です。

百日せきは、普通のかぜのような症状ではじまります。続いてせきがひどくなり、顔をまっ赤にして連続的にせき込むようになります。せきのあと急に息を吸い込むので、笛を吹くような音が出ます。熱は通常出ません。乳幼児はせきで呼吸ができず、くちびるが青くなったり（チアノーゼ）、けいれんが起きるあるいは突然呼吸がとまってしまうことなどがあります。肺炎や脳症などの重い合併症を起こしやすく、新生児や乳児では命を落とすこともあります。

予防接種導入後の家族内感染防止効果をみると家族内百日せきが発生したときに、ワクチンを接種していたものは非接種者に対し、約 90%以上の発症防止効果が確認されています。

（３）破傷風

破傷風菌はヒトからヒトへ感染するのではなく、土の中にいる菌が傷口からヒトの体内に入ることによって感染します。菌が体の中で増えると、菌の出す毒素のために、口が開かなくなったり、けいれんを起こしたり、死亡することもあります。患者の半数は本人や周りの人では気がつかない程度の軽い刺し傷が原因です。土中に菌がいるため、感染する機会は常にあります。また、お母さんが抵抗力を持っていれば出産時に新生児が破傷風にかかるのを防ぐことができます。

ワクチン効果ではトキソイドによる免疫効果は著明で、追加接種後の抗毒素産生能は 10 年以上続くといわれるが、防御レベルを保つためには、11～12 歳で追加接種を受ける必要があります。

（４）ポリオ

ポリオとは急性灰白髄炎のことで、「小児まひ」とも呼ばれ、わが国でも 1960 年代前半までは流行を繰り返していましたが、現在は、予防接種の効果で国内での自然感染は報告されていません。

ポリオウイルスはヒトからヒトへ感染します。感染したヒトの便中に排泄されたウイルスが、口から入りのど又は腸に感染します。感染したウイルスは 4～35 日間（平均 7～14 日）腸の中で増えます。しかし、ほとんどの場合は症状が出ず、一生抵抗力（終生免疫）が得られます。症状が出る場合、100 人中５～10 人は、かぜ様の症状があり、発熱を認め、続いて頭痛、嘔吐があらわれます。また、感染した人の中で、約 1,000～2,000 人に１人の割合で麻痺を起こします。一部の人には、その麻痺が永久に残ります。呼吸困難により死亡することもあります。

不活化ワクチンに含まれる 3 種類の型の抗原刺激によって、3 回接種後にはほぼ 100%の被接種者に中和抗体が産生されます。さらに追加免疫効果を目的として 4 回目の接種を行います。

（５）ヒブ（インフルエンザ菌ｂ型）

インフルエンザ菌、特にｂ型は、中耳炎、副鼻腔炎、気管支炎などの表在性感染症の他、髄膜炎、敗血症、肺炎などの重篤な深部（全身）感染症（侵襲性感染症ともいいます）を起こす、乳幼児にとって問題となる病原細菌です。ヒブによる髄膜炎は平成 22（2010）年以前は、5 歳未満人口 10 万対 7.1～8.3 とされ、年間約 400 人が発症し、約 11%が予後不良と推定されていました。また、生後 4 か月～1 歳までの乳児が過半数を占めていましたが、ヒブワクチンが普及し、侵襲性ヒブ感染症はほとんどみられなくなりました。

２　ワクチンについて

ジフテリア・百日せき・破傷風・ポリオ（不活化）・ヒブの 5 種混合ワクチンです。

４種混合およびヒブワクチンで接種を開始されている方は、原則として同一のワクチンで接種を行うこととしています。

※4 種混合ワクチン、ヒブワクチン、3 種混合ワクチン、またはポリオワクチンを１度でも接種したことがある方は、接種について江別市保健センターまたは、かかりつけ医に相談してください。

（裏面に続く）

３　接種方法について

<table>
<tr><th>対象年齢</th><th>標準的な接種年齢</th><th>標準的な接種間隔／接種回数</th><th>接種方法</th><th>合計回数</th></tr>
<tr><td rowspan="2">生後 2 か月
～
90 か月未満</td><td>初回：生後 2 か月～7 か月に至るまでに開始</td><td>20～56 日（20 日以上）間隔をおいて 3 回接種</td><td rowspan="2">皮下または筋肉内注射</td><td rowspan="2">4 回</td></tr>
<tr><td colspan="2">追加：初回（3 回）接種後、6～18 月に 1 回接種
（初回終了後 6 か月以上の間隔をおいて接種可）</td></tr>
</table>

４　予防接種を受けることができない方

（１）明らかに発熱（通常 37. 5℃以上をいいます）している方

（２）重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな方

（３）このワクチンに含まれる成分でアナフィラキシーを起こしたことのある方

「アナフィラキシー」とは、通常接種後約 30 分以内に起こるひどいアレルギー反応のことで、発汗、顔が急にはれる、全身にひどいじんましんが出る、はきけ、嘔吐、声が出にくい、息が苦しいなどの症状やショック状態になるようなはげしい全身反応のことです。

（４）その他、かかりつけ医師が予防接種を行うことが不適当な状態と判断した場合

５　予防接種を受けるに際し、医師とよく相談しなければならない人

（１）心臓血管系疾患、腎臓疾患、肝臓疾患、血液疾患、発育障害などの基礎疾患のある方

（２）過去に予防接種で、接種後 2 日以内に発熱・発疹・じんましん等アレルギーと思われる異常がみられた方

（３）過去にけいれん（ひきつけ）を起こしたことのある方

けいれんの起こった年齢、そのとき熱があったか、熱がなかったか、その後起こっているか、受けるワクチンの種類などで条件が異なります。必ずかかりつけ医と事前に相談しましょう。

（４）過去に免疫不全の診断がなされている方及び近親者に先天性免疫不全症の者がいる方

（５）ワクチンにはその製造過程における培養に使う卵の成分、抗菌薬、安定剤などが入っているものがあるので、これらにアレルギーがあるといわれたことのある方

６　予防接種を受けた後の一般的注意事項

（１）予防接種を受けた後 30 分間程度は医療機関でお子さんの様子を観察するか、医師とすぐ連絡をとれるようにしておきましょう。急な副反応が、この間に起こることがまれにあります。

（２）接種後、不活化ワクチンでは 1 週間は副反応の出現に注意しましょう。また、接種部位の異常な反応や体調の変化があった場合は、速やかに医師の診察を受けましょう。

（３）接種部位は清潔に保ちましょう。入浴は差し支えありませんが接種部位をこすることはやめましょう。

（４）接種当日は、激しい運動は避けましょう。

７　副反応について

主な副反応は注射部位の紅斑（赤み）・硬結（しこり）等で、2 回以上の被接種者にはときに著しい局所症状を呈することがあるが、通常数日中に消失します。注射部位以外の副反応では、発熱、気分変化、泣き等があります。重い副反応はなくても、機嫌が悪くなったり、はれが目立つときなどは医師に相談してください。重大な副反応としては、極めて希にショック、アナフィラキシー、血小板減少性紫斑病、脳症、けいれん等がみられることがあります。

８ 予防接種による健康被害救済制度について

定期の予防接種によって引き起こされた副反応により、医療機関での治療が必要になったり、生活に支障が出るような障がいを残すなどの健康被害が生じた場合には、予防接種法に基づく給付を受けることができます。

ただし、その健康被害が予防接種によって引き起こされたものか、別の要因（予防接種をする前あるいは後に紛れ込んだ感染症あるいは別の原因等）によるものなのかの因果関係を、予防接種・感染症医療・法律等、各分野の専門家からなる国の審査会にて審議し、予防接種によるものと認定された場合に給付を受けることができます。

※給付申請の必要性が生じた場合には、診察した医師、江別市保健センターへご相談ください。

お問い合わせ先：江別市保健センター　℡０１１－３８５－５２５２